

令和4年度
事業計画書

令和4年 4月 1日から

令和5年 3月31日まで



公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団

基本方針

定款に定めた財団の目的である4つの柱に沿って、令和4年度は次のとおり事業計画を定め、取り組んでまいります。

学術振興及び知識普及啓発の取組としては、広く日本全国の若手研究者を候補とする『木原記念財団学術賞』を実施するとともに、長期的な視点に立って神奈川県内の小・中学生の科学の芽を育むため、『木原記念こども科学賞』を実施します。

当該両輪の賞をもって、木原均博士の志を汲み、一時の潮流・時流にとらわれることのない、息の長い、一貫した人材育成施策を実施します。

また、『木原記念財団学術賞』及び『木原記念こども科学賞』は開始以来通算30回目を記念し、記念誌の発行や、記念講演の実施等、財団のプレゼンス向上に資するよう情報発信等強化に取り組めます。

共同研究開発等の企画及び推進の取組としては、企業や大学が互いの強みやアイデアを活かした共同研究開発の企画・プロジェクト化を後押しし、開発を進めるうえでの課題となる資金獲得等を支援するとともに、自らも我が国の生命科学分野における役割期待に応えるべく、新たなプロジェクトの創出を検討します。

令和4年度は、トライアル助成における中小企業・スタートアップ等向けの助成限度額を一部引き上げます。

産業活性化の支援の取組としては、横浜市が運営する『横浜ライフイノベーションプラットフォーム（LIP. 横浜）』の中心的な支援機関として、横浜市内中小企業・スタートアップ等の製品や技術を発信するWEBコンテンツを作成するなど、技術連携・ビジネス創出の機会を増やします。

クロスイノベーションカンファレンスでは、従来のネットワークに加え、新たな異分野大手企業を発掘することで、新たな連携開始のための機会の創出を目指します。

また、ヘルスケア関連分野の中でもデジタル技術を活用したデジタルヘルスケア産業の活性化を目指します。

産業集積・技術支援のための研究開発施設の設置・管理運営の取組としては、バイオベンチャー等の集積拠点である『横浜バイオ産業センター（YBIC）』について、計画的な修繕を実施し、研究開発の良好な環境を提供するとともに、脱炭素化に向けた省エネ改修を実施する等、拠点機能の維持・強化を図ります。

以上4つの柱に沿った取組の実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に十分留意のうえ、WEBの効果的な活用により各種情報発信や関係団体との情報交換や連携等を着実に進め、神奈川県内、横浜市内を拠点とする生命科学の振興とその応用による産業の活性化に寄与するよう尽力します。

I 生命科学に関する学術振興及び知識普及啓発事業

(令和4年度：11百万円、令和3年度：10百万円)

1 学術奨励事業

(1) 木原記念財団学術賞【公益目的事業区分（以下「区分」）：表彰・コンクール】

生命科学の分野で優れた独創的研究を行っており、今後のさらなる発展が期待できる研究者（満50歳以下）について、学会、大学、公的研究機関、過去の受賞者に推薦を依頼し、応募者の中から選考の上、最も優れた研究者に「木原記念財団学術賞」を授与します。

令和3年度に編集作業をした30周年記念誌が完成することから、さらなるプレゼンス向上に資するよう情報発信等を強化します。

【実施予定】

- ・募集期間：令和4年5月～9月
- ・選考：選考委員による選定
- ・授賞式等：令和5年6月

2 知識普及啓発事業【区分：表彰・コンクール、体験活動等】

(1) 木原記念こども科学賞

長期的な視点に立って神奈川県内の小・中学生の科学の芽を育むため、作品を募集・選考し、小学校低学年・高学年・中学校の各部門において優れた作品を第30回「木原記念こども科学賞」として表彰します。

併せて、30周年の記念事業として、生き物研究の手引き書等の作成や、表彰式での専門家の招待講演を企画します。

【実施予定】

- ・募集期間：令和4年7月～9月
- ・選考：選考委員により、各部門最優秀賞、優秀賞、努力賞等選定
- ・表彰式：令和4年12月

3 情報発信【区分：その他】

財団のホームページや財団の有するネットワークを通じて、生命科学の振興に役立つ情報を発信します。

また、一般市民にも財団の活動を周知できるよう、広報活動の拡大に努めます。

II 生命科学に関する共同研究開発等の企画及び推進事業

(令和4年度：17百万円、令和3年度：21百万円)

1 共同研究【区分：技術開発・研究開発、講座・セミナー・育成、相談・助言】

(1) 共同研究開発の創出・推進

神奈川県域に立地する生命科学分野の中小企業・スタートアップ・ベンチャー企業や大学・研究機関等が連携する、社会実装が有望視される研究開発プロジェクトの創出・推進を支援します。

また、研究開発を推進するため、国等の公的助成金を活用したプロジェクトの創出に取り組みます。

2 研究開発等助成事業【区分：助成（応募型）】

(1) LIP. 横浜トライアル助成事業

中小企業・スタートアップ等や大学・研究機関等の研究成果、臨床ニーズ等の実用化に向け、アイデアを具体化する試作品開発やデータ検証等にかかる費用を助成します。 ※本事業は横浜市令和4年度予算が市会にて議決されることを停止条件とします。

【名称】 LIP. 横浜トライアル助成事業

【助成率・助成限度額・助成件数】 10/10 以内

中小企業・スタートアップ等 200万円/4件、大学・研究機関等 100万円/5件程度

(2) 小児疾患研究助成事業（クラウドファンディング）

これまで研究開発資金を獲得することが困難であった領域の課題解決にも貢献できるように、小児疾患研究分野における新たなファンドレイジングに着手します。

Ⅲ 生命科学の応用による産業活性化の支援事業

(令和4年度：57百万円、令和3年度：47百万円)

1 事業化支援【区分：相談・助言、講座・セミナー・育成】

※本事業は横浜市令和4年度予算が市会にて議決されることを停止条件とします。

横浜市補助事業として、横浜市内の中小企業・スタートアップ等に対する以下のような支援を通じ、健康・医療分野の産業の活性化を図ります。

(1) LIP. YOKOHAMA BIBLIOの運営

研究開発シーズの事業化支援の一環として、研究開発情報や専門知識、人的ネットワークに効率的にアクセスしてアイデア創出を促す拠点、「LIP. YOKOHAMA BIBLIO」を引き続き運営します。

当該拠点において、中小企業・スタートアップ等、大学研究機関等からの様々な相談にコーディネータ等の専門家が応じるとともに、横浜市内中小企業・スタートアップ等の最先端の技術を紹介し、技術連携を支援するためのセミナー、企業の研究開発および戦略立案に役立てる情報を提供するセミナー等を開催します。

令和3年度に移転した関内地区のYOXO BOX OFFICE内にて引き続き運営します。

(2) マッチング機会の創出

6回目となる、生命科学分野において新規ビジネス等を検討する異分野大手企業と中小企業・スタートアップ等との交流機会「クロスイノベーションカンファレンス」を設け、横浜市内中小企業・スタートアップ等および大学研究機関等が外部と連携し、研究開発、事業化を進めるためのマッチングを支援します。

過去5回の開催で参加した42社の異分野大手企業と構築したネットワークに加え、新たな異分野大手企業を発掘することで、新たな連携開始のための機会を創出します。

(3) LIP. 横浜トライアル助成事業【区分：助成（応募型）】（再掲）

中小企業・スタートアップ等や大学・研究機関等の研究成果、臨床ニーズ等の実用化に向け、アイデアを具体化する試作品開発やデータ検証等にかかる費用を助成します。

中小企業・スタートアップ等 200万円/4件程度、大学・研究機関等 100万円/5件程度

(4) ヘルスケア関連事業

中小企業・スタートアップ等にヘルスケア関連分野の産業動向や学術的な情報を提供し、同分野への新規参入、ビジネス機会の創出及び研究開発の事業化を支援します。

また、ヘルスケア関連分野の中でもデジタル技術を活用したデジタルヘルスケアに着目し、当該産業の活性化を目指します。令和3年度に構築したデジタルヘルスケア拠点のサポート体制の充実、IT企業等のヘルスケア産業への参入支援等を行います。

(5) 個別支援等

中小企業・スタートアップ等への個別訪問・ヒアリング等により、生命科学分野で事業を行う際の課題に応じた助言、コーディネータ等の専門家相談対応、外部機関とのマッチング、必要に応じたプロジェクト組成と伴走、助成金獲得等の個別支援を実施します。

2 ネットワーク促進、活用事業（マッチング）【区分：その他】

(1) 横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワークの運営

横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワークを活用し、産業活性化に資する情報発信等を行います。

(2) バイオベンチャーアライアンス（BVA）の運営

中小企業・スタートアップ等、大学、金融機関等の連携体であるBVAの中核機関として事務局機能を担い、会員間の交流促進や研究開発助成に係る公募情報等の提供、企業間連携のコーディネーションなどの支援を行います。令和4年度からは特に、外部機関との連携推進に向けたプログラム（バイオインターフェース）の充実に注力します。

3 出展支援・広報【区分：展示会・〇〇ショー、相談・助言、講座・セミナー・育成】

※本事業は横浜市令和4年度予算が市会にて議決されること及び財団による受託が決定することを停止条件とします。

横浜市からの受託事業として、以下のような支援を通じ、横浜市内の中小企業・スタートアップ等の技術や製品を国内外にアピールし、技術連携やビジネスの創出につなげます。

(1) バイオジャパン2022出展支援

横浜市、川崎市と連携してバイオジャパン2022内にパビリオンを設け、域内に立地する中小企業・スタートアップ等の出展や販路拡大を支援します。

(2) シーズ・ニーズ紹介事業

中小企業・スタートアップ等の独自性・競争優位性のある製品や技術をWEB上で発信するコンテンツを作成し、中小企業・スタートアップ等の販路拡大を支援しま

す。

また、企業のニーズを調査して、LIP. 横浜会員企業へ展開することで、中小企業・スタートアップ等の技術連携やビジネス創出の機会を増やします。

(3) 「コネクト」アクセラレーションプログラム運営支援

米国サンディエゴを中心に活動する起業家支援組織「コネクト」と連携して、同組織が横浜市内中小企業・スタートアップ等に対してメンタリングができるようプログラム運営に協力します。当該プログラムを通して、中小企業・スタートアップ等の外部資金獲得に向けたプレゼンテーション力向上等を支援します。

4 クラスタ連携【区分：その他】

(1) クラスタ連携

バイオ産業支援機関ネットワーク会議の事務局として地域のクラスタを支援する公的機関、研究機関等と定期的に交流を行い、各地域の支援内容や成功事例等を共有し、地域の枠を越えた共同研究・事業連携等の創出に取り組みます。

IV 生命科学に関する産業集積・技術支援のための研究開発施設の設置及び管理運営（令和4年度：130百万円、令和3年度：121万円）

1 横浜バイオ産業センター（Y B I C）事業【区分：施設の貸与】

バイオ産業集積の拠点となる横浜バイオ産業センター（Y B I C）の運営を通じ、研究開発の場を提供（賃貸）し、また、研究開発や事業化に係る各種情報を随時提供することにより、中小企業やスタートアップ、ベンチャー企業、大学・研究機関等を支援します。

運営にあたっては、消防訓練、感染症対策などを実施するとともに、主要設備の保守・工事等の施設修繕を計画的に進めるなど、安全性の高い研究環境を提供します。また、退去等の機会をとらえ、照明のLED化を進めるなど、脱炭素にも貢献した施設の維持管理を図ります。